流山市三輪野山北浦遺跡

― 県道越谷流山線事業埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

平成30年2月

千 葉 県 教 育 委 員 会

流山市三輪野山北浦遺跡

ながれやましみわのやまきたうらいせき

— 県道越谷流山線事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

序　文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡が埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会は、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的としたこれまでの諸活動に加え、平成25年度から千葉県が行う開発事業にかかる発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について直接実施することとしました。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第24集として、県道越谷流山線事業に伴って実施した流山市三輪野山北浦遺跡の発掘調査報告書です。調査成果としては、後世の開発等により遺構は検出できませんでしたが、縄文時代早期の土器や中・近世の土器など隣接地域との関連性をうかがうことのできる遺物が出土しました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する理解を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

平成30年2月

千葉県教育委員会
文化財課長　萩原恭一

凡　例

1　本書は、千葉県県土整備部東葛飾土木事務所による県道越谷流山線事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本書は、下記の遺跡を収録したものである。

　　三輪野山北浦遺跡　流山市三輪野山５丁目 571 番１ほか　（遺跡コード 220-065）

3　千葉県県土整備部の依頼を受け、千葉県教育庁教育振興部文化財課が平成 28 年度に発掘調査を実施し、平成 29 年度に整理作業を実施した。

4　調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者等は、第１章第１節に記した。

5　本書の執筆・編集は主任上席文化財主事 金丸　誠 が行った。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで、流山市教育委員会、千葉県県土整備部道路整備課、同東葛飾土木事務所ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。

7　本書で使用した地図の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。

8　本書で使用した地形図は下記のとおりである。

　　第１図　国土地理院発行　1/25,000　地形図「流山」平成 22 年を編集

　　第２・３図　流山市　流山市都市計画情報　都市計画情報マップ 1/2,500 を編集

9　図版１の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和 46 年撮影のものを使用した。

本文目次

第１章　はじめに……1
　第１節　事業の経緯と経過……1
　第２節　遺跡の位置と環境……1
第２章　調査の概要……4
　第１節　調査の方法と経過……4
　第２節　調査の成果……4
第３章　総　括……8
報告書抄録……巻末

挿図目次

第１図　三輪野山遺跡群位置……2
第２図　三輪野山遺跡群と調査区……3
第３図　調査区及び下層確認グリッド配置……5
第４図　三輪野山遺跡群方眼網と暫定方眼網……6
第５図　下層土層断面……6
第６図　出土遺物……7

図版目次

図版１　航空写真（S= 約 1/10,000）
図版２　調査前状況・確認調査状況
図版３　出土遺物

第１章　はじめに

第１節　事業の経緯と経過

千葉県・埼玉県・茨城県の３県では、つくばエクスプレス沿線地域における新線建設と一体型の大規模土地区画整理事業による地域整備事業を進めており、流山都市計画道路３・２・25 号下花輪駒木線（越谷流山バイパス）は、これら沿線地域の連携を図るための広域幹線道路の一部であるとともに、主要地方道草加流山線の流山橋周辺地域の交通混雑の緩和を図るために計画された重要な道路である。

この整備計画の実施に当たり、平成 25 年 12 月に千葉県東葛飾土木事務所長から千葉県教育委員会に対して事業計画地内の流山市下花輪ほかにおける「埋蔵文化財の取扱いについて」の協議があり、千葉県教育委員会では現地踏査等の結果を踏まえ、平成 26 年１月に事業計画地内に埋蔵文化財包蔵地（三輪野山北浦遺跡・三輪野山道六神遺跡）が所在する旨の回答を行った。

この回答に基づき、その取扱いについて関係諸機関で協議を重ねた結果、事業計画地内に所在する三輪野山北浦遺跡の一部と三輪野山道六神遺跡については、既に流山市三輪野山第２土地区画整理事業に伴って発掘調査が実施されていたが、それらを除く三輪野山北浦遺跡にかかる部分については、事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり、千葉県教育委員会が発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、事業地西端部の未買収地を除く 1,907㎡を調査対象地として平成 28 年度に実施し、整理作業は平成 29 年度に実施した。各年度の調査組織及び担当者・期間・内容は次のとおりである。

なお、事業地西端部の未買収地及び現道部分については、今回の発掘調査成果等により既に埋蔵文化財が損壊を受けていると判断されたことから、「慎重工事」の取扱いとなった。

○平成 28 年度

千葉県教育庁教育振興部文化財課

文化財課長　永沼 律朗　　発掘調査班長　田井 知二

担当者　文化財主事　松浦 誠

期間　平成 28 年 10 月 17 日～ 11 月 30 日

内容　確認調査　上層 1,907㎡／ 1,907㎡　　下層 76㎡／ 1,907㎡

○平成 29 年度

千葉県教育庁教育振興部文化財課

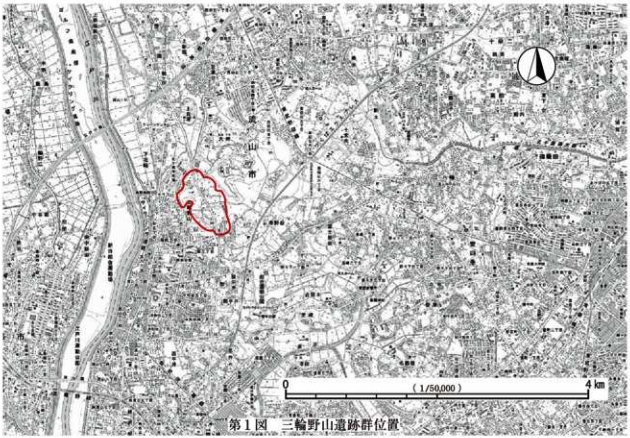
文化財課長　萩原 恭一　　発掘調査班長　山田 貴久

担当者　主任上席文化財主事　金丸 誠

内容　水洗・注記～報告書刊行

第２節　遺跡の位置と環境（第１・２図、図版１）

三輪野山北浦遺跡が所在する流山市は、千葉県の北西部に位置し、江戸川河口からの距離は約 30㎞である。市域は江戸川の左岸に沿って南北に細長く、北は利根運河を境に野田市と、東は柏市、南は江戸川の支流である坂川を挟んで松戸市と接している。流山市の地形は、下総台地と利根川や江戸川などの沖積低地からなり、水系は西側の江戸川と東側の利根川・手賀沼水系の大堀川とに分かれている。



第１図　三輪野山遺跡群位置

三輪野山北浦遺跡は、江戸川水系の下花輪支谷などにより開析された下総台地の北端部にあり、同じ台地上に所在する三輪野山道六神遺跡・三輪野山宮前遺跡・三輪野山八幡前遺跡・三輪野山貝塚・三輪野山八重塚低地遺跡などとともに三輪野山遺跡群を構成している。また、同じ台地上の三輪野山北浦遺跡の西側には三輪野山第Ⅲ遺跡が所在している。

三輪野山遺跡群については、流山市教育委員会による流山市三輪野山第２土地区画整理事業に伴う発掘調査や、財団法人千葉県文化財センター（現・公益財団法人千葉県教育振興財団）による県道松戸野田線建設に伴う発掘調査が行われており、その成果については報告書が刊行されている[1]。三輪野山遺跡群周辺の地理的・歴史的環境や周辺遺跡の概要などについては、それらの報告書の中で詳しく述べられているので、参考にしていただきたい。

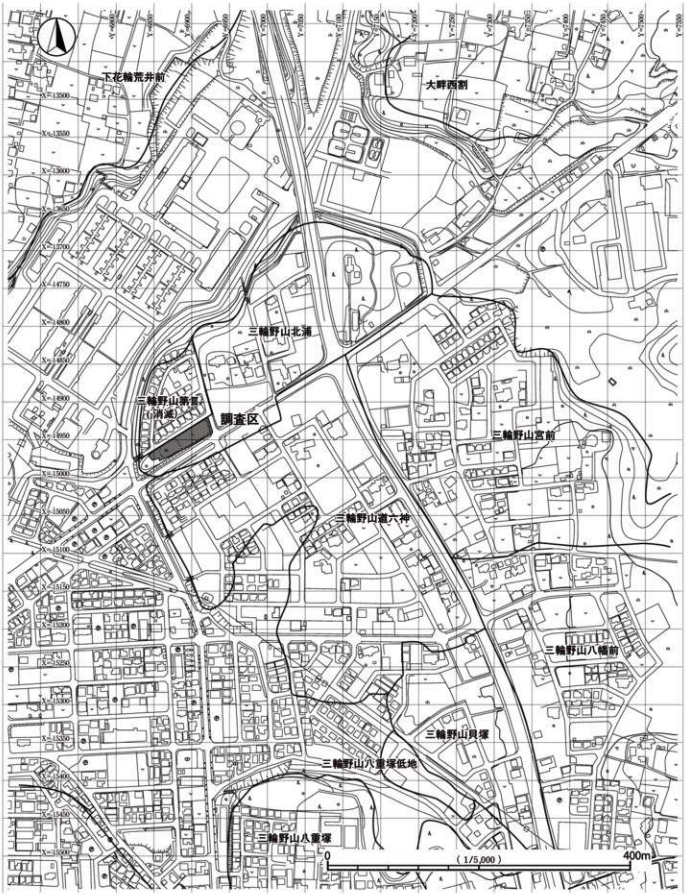
注

（1）2015　小栗信一郎ほか『流山市三輪野山遺跡群発掘調査概要報告書』流山市埋蔵文化財調査報告 Vol.55
流山市教育委員会

1996　岡田光広ほか『主要地方道松戸野田線埋蔵文化財調査報告書－流山市南割遺跡・上貝塚第Ⅱ遺跡・上貝塚第Ⅰ遺跡・上貝塚貝塚・下花輪第Ⅱ遺跡・三輪野山第Ⅱ遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第 276 集
財団法人千葉県文化財センター

2001　大内千年『主要地方道松戸野田線住宅宅地関連埋蔵文化財調査報告書－流山市三輪野山貝塚・宮前・道六神・八幡前－』千葉県文化財センター調査報告書第 399 集　財団法人千葉県文化財センター

2004　今泉潔『主要地方道松戸野田線住宅宅地関連埋蔵文化財調査報告書（２）－流山市三輪野山貝塚・三輪野山宮前遺跡・三輪野山八幡前遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第 482 集　財団法人千葉県文化財センター



第２図　三輪野山遺跡群と調査区

第２章　調査の概要

第１節　調査の方法と経過

発掘調査（第３・４図、図版２）　発掘調査に当たっては、流山市教育委員会が昭和63年度の三輪野山遺跡群確認調査で設定したグリッドを踏襲した[1]。三輪野山遺跡群全体をカバーするように、X＝－14650、Y＝6800を起点に50ｍ×50ｍの方眼網を設定し、大グリッドとした。名称は北から南へ１・２・３・・・・、西から東へＡ・Ｂ・Ｃ・・・・とし、大グリッドを５ｍ×５ｍの小グリッドに100等分し、北西隅を00、南東隅を99とした。小グリッド名はそれらを組み合わせてA1－01と表記することとした。

ただし、確認調査に当たっては、暫定的に調査区の長軸方向を基軸とした４ｍ×４ｍの方眼網を設定した。呼称は西から東へ１・２・３・・・・、北から南へＡ・Ｂ・Ｃ・・・・とし、グリッド一括遺物の取上げ及び下層確認グリッドの設定に使用した。

発掘調査は調査区内で排土処理することにしたため、調査区内を東西に二分割し片方を排土置場にして、交互に調査することとした。上層確認調査は重機により表土層をすべて除去した後、人力で精査作業を行った。下層確認調査は、２ｍ×２ｍのグリッドを19か所設置し、対象面積1,907㎡の概ね４％に当たる76㎡の確認調査を行った。確認調査の結果、本調査が必要な遺構・遺物は検出されず、上層・下層ともに確認調査で終了した。記録作成は調査区全体図と下層グリッド土層断面図の作成を行った。写真撮影は６×７モノクロフィルム及び35㎜カラーリバーサルフィルムカメラ、デジタルカメラ（JPEGデータ）により実施した。

整理作業　整理作業は出土遺物の水洗・注記作業を行った後、遺物の種別・器種分類を行ってから接合・復元作業を実施し、実測・拓本作業を行った。発掘調査で作成した図面・写真などの記録整理の後、挿図・写真図版原図を作成し、それらをもとにデジタル編集によるトレースや写真補正などを行い、挿図・写真図版を作成した。その後、原稿執筆・編集・校正作業を経て、この度報告書刊行となった。また、報告書編集中に報告書に基づいた収納整理作業も併せて実施した。なお、下層確認グリッドの呼称については、発掘調査時は、「トレンチ」として記録作成し、遺物への注記もトレンチ（Ｔ）で行ったが、本報告書では、従来どおり「グリッド」に改めた。

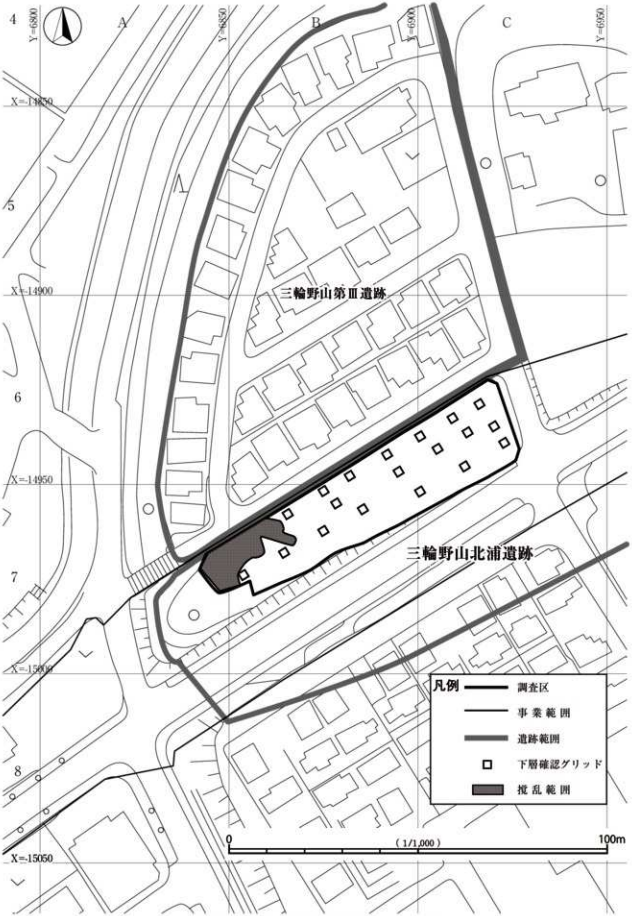
第２節　調査の成果（第５・６図、図版２・３）

上層については、全域にわたってⅦ層まで削平されていたため、遺構は全く検出できなかった。また、１グリッド及び５・６グリッドから西側では、白色粘土層まで掘削が及んでいた。調査区全体としては東側の方がより深く掘削され、Ⅸｃ層あるいはⅩａ層まで及んでいた。

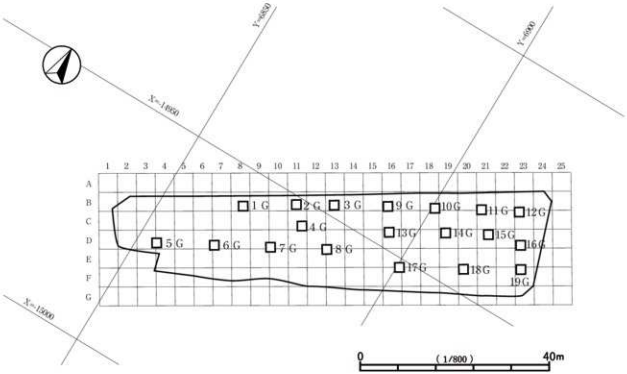
下層については、立川ローム層がより厚く残存している場所にグリッドを設定したが、遺物は出土しなかった。立川ローム層の堆積状況は、下総台地の東葛飾地域の基本土層に基づいて分層を行った。最も残存状況が良かった１グリッドではⅦ層以下が観察できたが、Ⅷ層は分層できなかった。Ⅸ層はⅨｂ層が観察できず２枚に分層した。Ⅹ層は２枚に分層することができた。

Ⅰ層　表土層及び撹乱層である。

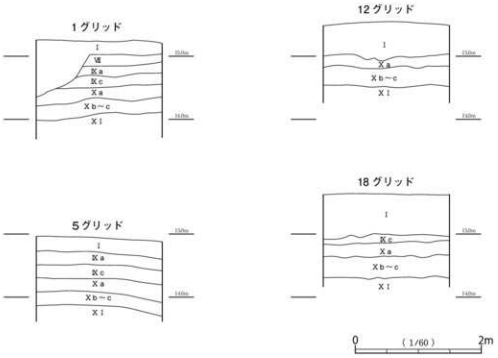
Ⅶ層　褐色土層(10YR4/4)　赤・黒色スコリアを少量含む。ＡＴはまばらに見られる。



第３図　調査区及び下層確認グリッド配置



第４図　三輪野山遺跡群方眼網と暫定方眼網



第５図　下層土層断面

Ⅸ a 層　にぶい褐色土層 (10YR4/3)　赤・黒色スコリアを少量含む。
Ⅸ c 層　褐色土層 (10YR4/4)　赤・黒色スコリアを少量含む。
Ⅹ a 層　褐色土層 (10YR4/6)　赤・黒色スコリアを微量含む。
Ⅹ b･c 層　やや明るい褐色土層 (10YR4/6)　赤・黒色スコリアを微量含む。
Ⅺ層　やや明るい褐色土層 (10YR4/6)　スコリアを含まない。しまりが強い。

精査作業に伴って土器片などの遺物が少量出土した。

１～４は縄文土器である。いずれも早期後葉の条痕文土器で、内外面に貝殻条痕が施され、胎土は多量の白色砂粒と植物繊維を含んでいる。色調は、１・４は内外面ともに赤褐色、２は外面が赤褐色で、内面が黒色、３は内外面ともに褐色である。３の外面の器表面は荒れており、貝殻条痕が不明瞭である。

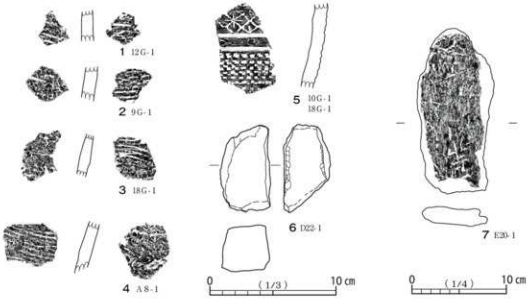
５は瓦質の深鉢形土器である。外面に２段の文様帯がある。上部は横位の沈線による区画の中に連続した花菱文のスタンプ文が施される。上部と下部の文様帯との間には、沈線により区画された無文帯があり、ヘラ磨きが施されている。下部の文様帯は、格子目状のスタンプ文が施される。格子の透かしの大きさが２㎜×３㎜ほどの工具を重ねて押捺したと思われる。器表面は内外面ともに黒色である。内面はナデ調整が施される。器壁断面の色調は、器表面側が茶褐色で、その内側が黒灰色のサンドイッチ状になっている。胎土は緻密で、焼成は良い。

６・７は石製品である。６は石英の火打ち石で、右側面に剥落痕が見られる。最大長 6.9㎝、最大幅 4.0㎝、最大厚 3.7㎝、重さ 145.08 ｇである。７は緑泥片岩の板碑片で、線刻が見られるが内容は不明である。最大長 17.5㎝、最大幅 8.0㎝、最大厚 1.8㎝、重さ 403.8 ｇである。

図示できたもの以外には、古墳時代以降の土師器・須恵器小片が数点出土している。

注

（１）1989　小栗信一郎『三輪野山遺跡群－昭和 63 年度確認調査概報－』流山市教育委員会



第６図　出土遺物

第３章　総　括

今回の調査区においては、周辺の発掘調査成果などから数多くの遺構が検出されると予想して、発掘調査を行ったが、調査区の全域にわたってⅦ層まで削平され、場所によっては更に深くまで掘削されていたことから、上層の遺構は全く検出できなかった。また、旧石器時代についても、一部地点でⅦ層が残存していたが、確認の結果、遺構・遺物は全く検出できなかった。

出土遺物としては、図示した縄文時代早期の条痕文土器と中・近世の瓦質土器・石製品、そのほかに図示できなかった土師器・須恵器小片があるが、数量はわずかである。

三輪野山遺跡群の様相については、流山市三輪野山第２土地区画整理事業に伴う発掘調査成果を中心として、流山市教育委員会により遺跡や時代毎に丁寧で分かりやすくまとめられている。ここでは、それを参考にして出土遺物に関係する時代について概観したい。縄文時代早期については、三輪野山北浦遺跡Ａ地点で包含層と炉穴３基、同Ｂ地点で炉穴１基、三輪野山道六神遺跡Ｂ・Ｅ地点で、合わせて 65 基の炉穴、三輪野山第Ⅲ遺跡で竪穴住居跡１軒と炉穴 10 基、三輪野山貝塚で炉穴 12 基など、炉穴を中心として竪穴住居跡や遺物包含層が検出されている。これらの遺構は、三輪野山遺跡群のある台地の北西から南西にかけての斜面縁辺のエリアに分布している。今回の調査区も、このエリアに含まれており、出土遺物はごくわずかであるが、当該期の遺構が存在していた可能性を示すものと思われる。

中・近世については、三輪野山北浦遺跡、三輪野山第Ⅲ遺跡、三輪野山道六神遺跡、三輪野山宮前遺跡で掘立柱建物跡や地下式坑、井戸、土坑などを伴う大規模な台地整形遺構や道路状遺構、墓域などが検出されている。これらは三輪野山遺跡群のある台地北側に集中しており、当時の生活の基盤地域を形成していたとされている。出土遺物は、中国産の磁器は少なく、常滑や古瀬戸などの国産陶器は一定量出土するものの、甕や擂鉢などの日常雑器が主体である。時期は 15 世紀後半以降のものが大半で、近世中葉まで継続していたとされている。今回の調査区で出土した５の瓦質の深鉢形土器は、火鉢を想定しているが、その時期は文様の花菱文が陰刻であること、文様帯の区画が沈線であることなどから、近世（18 ～ 19 世紀）のものと考えられる。中・近世についても、今回の調査区では遺構が全く検出されず、瓦質深鉢形土器破片や緑泥片岩の板碑片などわずかな遺物しか出土しなかったが、本来は、上記の遺構群の一部として存在していたものと思われる。

参考文献

1988　宇佐美義春ほか『三輪野山第Ⅲ遺跡』流山市埋蔵文化財調査報告 Vol. 6　流山市教育委員会

2015　小栗信一郎ほか『流山市三輪野山遺跡群発掘調査概要報告書』流山市埋蔵文化財調査報告 Vol.55　流山市教育委員会

1986　小林謙一「江戸における近世瓦質・土師質火鉢について－麻布台一丁目遺跡出土資料を中心に－」『慶應義塾大学考古学研究会二十周年記念論集』慶應義塾大学考古学研究会報告３　慶應義塾大学考古学研究会

1988　小川望・小俣悟「関東の瓦質土師質火鉢類－中世鎌倉、近世江戸を中心に－」『考古学ジャーナル№ 299　特集・中近世の土器と陶磁器』　ニューサイエンス社

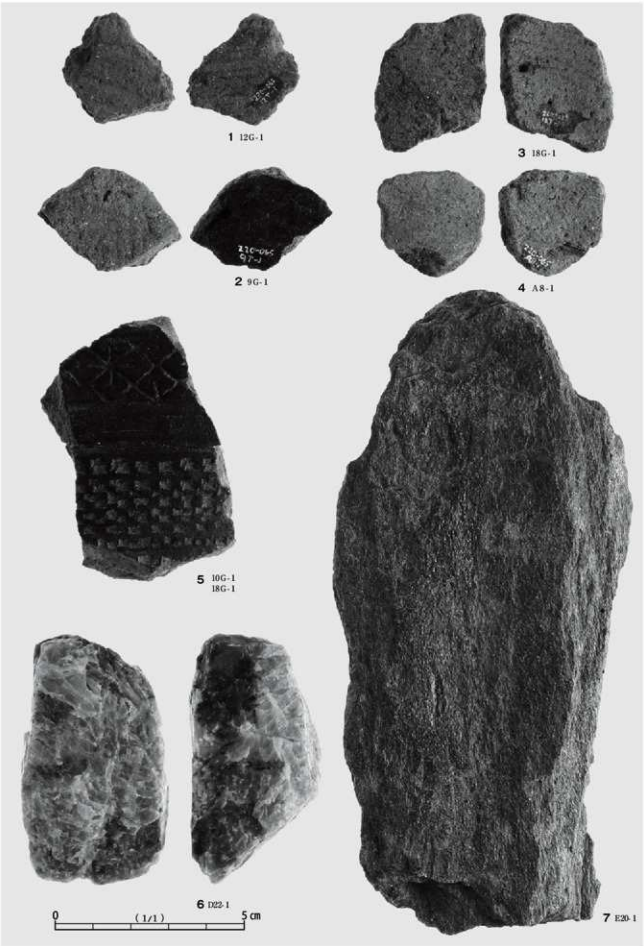
1989　菅原正明「西日本における瓦器生産の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告第 19 集』　国立歴史民俗博物館

写　真　図　版

航空写真（S＝約1/10000）

図版 2

調査前状況・確認調査状況



出土遺物

報告書抄録

ふ　り　が　な	ながれやましみわのやまきたうらいせき
書　　名	流山市三輪野山北浦遺跡
巻　　次	
副　書　名	県道越谷流山線事業埋蔵文化財発掘調査報告書
シ　リ　ー　ズ　名	千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告
シ　リ　ー　ズ　番　号	第24集
編　著　者　名	金丸　誠
編　集　機　関	千葉県教育委員会
所　在　地	〒260 － 8662　千葉県千葉市中央区市場町1－1　　TEL043 － 223 － 4129
発　行　年　月　日	西暦2018年2月28日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
三輪野山北浦遺跡（みわのやまきたうらいせき）	流山市三輪野山（ながれやましみわのやま）5丁目（ちょうめ）571番（ばん）1ほか	12220	065	35度52分05秒	139度54分22秒 世界測地系 WGS84	20161017～20161130	1,907㎡	県道越谷流山線道路整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な構造	主な遺物	特記事項
三輪野山北浦遺跡	包蔵地 集落跡	縄文時代 古墳時代以降 中・近世	なし	縄文土器 土師器・須恵器 近世瓦質土器	

要　約	三輪野山北浦遺跡をはじめとする三輪野山遺跡群は、これまで流山市教育委員会等によって発掘調査が行われており、旧石器時代から近世までの幅広い時代の遺構・遺物が多数発見されている。しかし、今回の調査区は全域にわたり立川ローム層のⅦ層まで削平されており、上層遺構は全く検出されず、下層についても遺物は出土しなかった。

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第 24 集

流山市三輪野山北浦遺跡

― 県道越谷流山線事業埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

平成 30 年 2 月 28 日発行

編集・発行　千葉県教育委員会
千葉市中央区市場町１－１

印　　刷　株式会社正文社
千葉市中央区都町 1-10-6